

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0171400351		
法人名	社会福祉法人 函館光智会		
事業所名	老人グループホームシルバービレッジ函館あいの里・泉		
所在地	函館市亀田中野町278番53 (電話) 0138-47-4331		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年5月27日	評価確定日	平成20年7月23日

【情報提供票より】(平成20年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成11年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤2人, 常勤換算5.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造ステンレス銅板葺造り		
	2階建ての	1～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000～30,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	380 円	おやつ	90 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	0	要介護2	1		
要介護3	6	要介護4	6		
要介護5	5	要支援2	0		
年齢	平均 83.1歳	最低	73歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひでしま内科胃腸科クリニック・函館赤十字病院・川瀬耳鼻咽喉科医院・Youテンプルクリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム発祥の地の石碑がある「グループホームあいの里」と隣接している「あいの里・泉」は、玄関先に昔懐かしい堀井戸のミニセットがあり、植木の深緑の中に草花やつつじが色鮮やかに咲き、利用者の憩いの場になっている。生活型の事業所内には斜路があり壁に飾られた木彫りの装飾品を見ながら、職員は、「ゆっくり・一緒に・楽しく」の理念を実践し、利用者の可能性を引き出す支援をしている。運営者は、グループホームの創設者であり、認知症ケアの指導、教育に貢献しており、なお理想に向かい、まい進している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は、ミーティングやカンファレンスの中で話し合い、全職員で、改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	評価の意義・目的は、全職員が理解しており、チームで自己評価に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は10回実施している。評価で明らかになった課題や、家族からの要望・活動計画などを議題にし、サービスの向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	運営推進会議や、面会時の家族との会話の中などで、意見、苦情を表せる雰囲気をつくり、要望がある時は、ミーティングの中で話し合い運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所周辺は、庭園や東屋、花壇などを整備しており、地域住民の最適の散歩道となっており訪れる人が多い。町内会のお祭りには、子供みこしが来るなど、地域住民との交流は盛んにしている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間総合・自然総合・地域総合」という理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は「ゆっくり・一緒に・楽しく」を柱においたケア理念を共有し、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の周辺は、庭園と東屋があり、畑や花壇の近くには、ポニーがおり、また子供達のためにブランコを設置し、地域の方々に開放している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的は、ミーティングの中で話し合い、全職員が理解しており、チームで改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族や町内会の方の参加のもと、今まで10回実施しており、評価で明らかになった課題を報告し、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、グループホーム創設者であり、多方面にわたり行政機関の業務を受託し、連携は密接である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の暮らしを写真に収め、定期受診結果・金銭出納帳や、職員異動のある時は紹介記事などを載せた書面を送付し、2ヶ月ごとに各家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時などで、家族が意見・苦情など表せる雰囲気づくりに留意している。要望などがある時は、ミーティングにて全職員で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者や職員との馴染みの関係を重視し、各ユニットの職員を固定化しており、異動や離職を最小限に抑える努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の教育と育成に最大限の努力をされており、法人内外の研修会には積極的に参加させ、研修報告は全職員に伝わる仕組みにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、南北海道グループホーム協議会のブロック会長を務め、同業者の来訪が多数あり、インターネットでの情報交換などしておりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スタッフが本人や家族と面会を重ね、馴染みの関係作りをしてからサービスを利用できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、職員は利用者から学ぶ事が多くあり、理念に基づいて「ゆっくり・一緒に・楽しく」を実践し、共に支えあう関係づくりに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な利用者には、仕草や表情から把握し、本人の意向にそったケアをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	契約時に「希望の処方箋」を作成して、家族の思いを聞き、アセスメントシートに活かすアイデアを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度の見直しをしているが、状態の変化に応じて随時見直しをして、家族の同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関受診支援、外出、外泊支援、家族宿泊の対応など、利用者と家族が安心して暮らし続けるために、臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で、継続的な医療が受けられるようにかかりつけ医との関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にターミナルケアについて家族に説明し、同意を得ており、全職員で終末期に向けた方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は、所定の場所で管理している。面会者名簿は、一覧表の形式で記入するようになっている。	○	面会簿を個別記載とするなど、他来訪者の目に留まらない配慮を期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・消灯・食事などの時間に、規制はなく、本人のペースにあわせている。日中は、希望にそって、事業所周辺の散歩、ポニーとのふれあいなどを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片づけなど、個々の力を活かせるような場面作りをして、職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の規制はなく、本人の体調に合わせて支援している。浴槽にターンリフター(介護入浴装置)を設置し、利用者が負担なく入浴できるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に家族から生活歴を聞き取り、本人の希望や、身体能力に応じて、洗濯物たたみ、斜路での散歩や買い物など、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の周辺は、庭園や花壇・畑・ぼた山・東屋など散歩に最適な環境にあり、利用者は、戸外に出る機会が多く、また年間活動計画の中で、季節にあわせ、遠方へ出かける取組み等を計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、ダブルタッチ式の自動ドアにして工夫しており、日中の出入りは自由である。夜間は防犯のため施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署と地域の住民の協力を得ながら、防火・避難訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導により、栄養バランス、カロリー計算して献立を作成している。水分摂取状況は、毎日チェック表に記録し、全職員で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、清潔に保たれており、不快な音や臭いは感じられない。調度品も昔懐かしい形の物を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族と相談して自宅から家具や生活用品、装飾品が持ち込まれており、居心地良い生活の場になっている。		

※  は、重点項目。